

2016 年度政治経済学Ⅰ 定期試験 (2016 年 07 月 26 日実施)
模範解答

※採点ポイントについては採点の状況に応じて変更されるかもしれません。

以下の問題のすべてに答えよ。

その際に、どこまでがどの問題の解答なのか、わかるように、必ず解答用紙に解答番号を明記すること。

具体例を答えさせる問題については、具体例の採点が大きな割合を占めているので、必ず具体例を書くこと。

(1), (2) という番号付けについては、採点のポイントを明示したものである。きちんとどちらにも答えているのがわかるように書いてあれば、(1) と (2) とが一文中に混在していても構わない (文・段落等で分けなくても構わない)。

[1]

人間が労働において社会を形成する際の相互性について、(1)それがどのようなものであり、また(2)もともと個人の労働がもっているどういう性格からそれが派生するのか、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：(1)についてはどのような相互性なのか、すなわちどういう点での相互性なのか、ということが重要である。

[模範解答では書きやすい(2)から始めるが、もちろん、順序はどちらからでも構わない。]

もともと個人の労働の原理は媒介性であって、あらゆるものを自分の媒介 (手段) にしていく。例えば…… [具体例は省略]

しかし、この媒介が他者の労働である限りでは、他者もまた労働する個人である。したがって、自然を一方的に媒介にする場合とは違って、他者の労働を媒介にする場合には、互いに互いを媒介にしようとするのだから、相互性が原理になる。しかも、労働は自覚的な行為である。それゆえに、この相互性は自覚的な相互性である。例えば…… [具体例は省略。理論的には、計画や権威やを始めとして、いろいろなものがある。]

[媒介性そのものの例はある方がいいが、なくても構わない。相互性が自覚的な相互性であるということの例は必須である。]

[2]

商品生産一般について、労働の形態と生産関係との(1)それぞれについて、また(2)両

者の関連について、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：(1) ではどのような労働の形態、どのような生産関係なのかを答えること。

(1) 商品生産一般において労働の必然的な形態は私的労働である。私的労働とは、社会から切り離されて私的な空間で自己責任・自己利得で行う労働である。しかしまた、市場社会では、私的労働はそれだけで完結するものではなく、商品を生産する労働であり、商品が売れて社会的労働になるような労働である。このように私的労働と社会的労働とが分離している場合に成立するのが商品生産関係である。そもそも労働において私的労働と社会的労働とが分離しているのだから、商品生産を行うような生産関係であり、またそれを通じて商品売買に、つまり交換関係に帰結するような生産関係である。例えば……〔具体例は省略〕

(2) そもそも私的労働と社会的労働との分離が商品を生産するのだから、私的労働が商品生産関係を産み出す。そして、ひとたび商品生産関係が産み出されると、この生産関係の下で私的労働が安定的に運営される。例えば……〔具体例は省略〕

[3]

賃金労働者の間での競争と競い合いとの関係について、(1) 対立と(2) 関連との双方について、具体例を挙げて説明せよ。

(1) 競争の原理は他者に対して自己が勝つということであり、したがって他者を蹴落とすことである。これに対して、協業において必要になる競い合いの原理は競い合って互いに能力を伸ばしあって全体最適を達成するということである。例えば……〔具体例は省略〕。

(2) 資本主義的な生産においては賃金労働者たちは、交換過程においては、つまり労働力市場においてはたがいに相手を蹴落とし合う競争の真っ只中にいる。したがって、労働力市場で同一の資本によって購買されるということから協業が始まる限りでは、資本が組織した協業の中でも競争の原理が存在する。しかしまた、上で述べたように協業そのものでは競い合いの原理が生まれてくる。したがって、賃金労働者たちは、賃金労働者として互いに競争しつつ、この条件の下で同時に労働する個人として競い合うのである。例えば……〔具体例は省略〕

[4]

複雑労働と熟練労働とについて、科学的知識の意識的・計画的適用が導入された現代的産業において、(1) どのような形態で、(2) どのような役割を演じるのか、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：現実は無限に多様なものだから、特徴的・典型的なものを書くこと。

複雑労働はこうなり、熟練労働はこうなるというようにきちんと分けて書くこと。

[熟練の解体:] 現代的産業においては、従来の熟練労働は解体されて機械設備によって置換される。例えば…… [具体例は省略]。[複雑労働の形成:] その代わりに、数は少ないが必要になるのが知識労働という複雑労働である。[この知識労働は何よりも先ず技術者・管理労働者によって発揮される。しかしまた、機械設備を操作するためにも最低限の科学的知識が必要になるのであって、その限りでは、現代的産業では上から下まで知識労働が必要とされている。] 例えば…… [具体例は省略]。[熟練の再形成:] ところが、現代的産業の下でも、分業が行われている限りでは、このような複雑労働者について熟練が形成され、新しい熟練労働が発揮されるようになる。[熟練の再解体:] しかしまたやはり、このような新しい熟練労働もコスト要因である限りでは、新たな機械設備によって解体されることになる。

[(a) 熟練の解体あるいは再解体と、(b) 複雑労働の形成あるいは熟練の再形成との最低二点について、具体例があるのが好ましい。]